

令和7年度 第3回旭川市図書館協議会会議録

■日時 令和8年2月19日（木） 午後3時00分から午後4時00分

■場所 旭川市中央図書館 2階 視聴覚室

■出席者（敬称略）

委員長 東藤 義文

副委員長 平泉 美智子

委員 五十嵐 憲子、江口 いづみ、松田 凌輝、三谷 海広、
宮内 彩加、柳渡 則子

■図書館

登野中央図書館長、千葉事務係長、冨田奉仕係長、谷野奉仕係主査、坂口事務係主査

■次第

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 議事
 - (1) 令和7年度事業実施状況について
 - (2) 令和8年度事業計画（案）について
 - (3) 第5次旭川市子ども読書活動推進計画について
 - (4) その他
- 4 閉会

■提出資料

- ・資料1-1 令和7年度事業実施状況
- ・資料1-2 第27回図書館まつりチラシ
- ・資料1-3 第27回図書館まつり各行事参加人数
- ・資料1-4 第27回図書館まつりアンケート集計
- ・資料2-1 令和8年度事業計画（案）
- ・資料3-1 第5次旭川市子ども読書活動推進計画（案）に対して寄せられた御意見と旭川市教育委員会の考え方
- ・資料3-2 第5次旭川市子ども読書活動推進計画（案）に対する委員の御意見

■会議の公開・非公開 全て公開

■傍聴者 なし

■協議内容(要約)

事務局から、次第に従って説明を行った。

(1) 令和7年度事業実施状況について

(委員)

図書館まつりのアンケートの意見の中に、多くの人に知って参加していただけるように今以上に告知していただければと思いますって書いてあるんですけど、きっとこんな面白いことをやっているとわかればまだ多くの方が来てくれると思うんですよね。何か方法があればと思っています。

(事務局)

図書館では先週からInstagramを始めました。子連れの若い母親が情報を得る際にInstagramをよく利用するとの声が多いため、今後は情報発信を積極的に進めていきたいと考えています。また、昨年10月から公式LINEも運用を開始し、イベント情報や休館情報の発信、予約機能などSNSを活用したサービスを展開しています。さらに、図書館に興味がない人でも訪れてもらえるよう、健康フェスタなど、他部局と連携してイベントを実施するなどの取組を拡大していきたいと考えています。

(委員長)

図書館まつりの参加者が前年の2倍以上増加したということですので、その工夫については、いくつかポイントがあったように思います。役所の関係部署と連携するアイデアや内容の工夫、今回は健康という親しみやすい内容が大きくアピールポイントとなり、SNSを使った告知の工夫もあったかと思います。また来年詰めていけば、さらに期待できるのかなと思います。

(事務局)

前年の反省として、お昼に食べる物がないと、午前のイベントと午後のイベントで一度帰らなきゃいけないというお話がボランティアの方々からありました。ちょうど近くの喫茶店の方のネットワークでお昼ごはんを出してくれるところが連携してくれて、コーヒーや昼食の提供ができましたので、お子さんが朝のイベントに参加して、ご飯を食べて午後からのイベントにも行くことができ、1日過ごせたのではないかと思います。

(委員)

セルフ貸し出し体験というのも、人数が 182 人で多かったと聞いたのですが、これはどのような新しい機械が入ったのでしょうか。

(事務局)

貸し出し体験も毎年行っていたイベントではあるんですが、通常だと普段いつも使っているパソコンを使うんですが、システム更新に合わせて、コミュニケーションロボットのケビーというロボットが入りました。当日は 2 台置いて、カウンターで図書館まつりだよとか喋る機能があり、見た目がかわいいので子供たちに人気がありました。

イベントのときなどに登場させたり、図書館の PR などもできるので、また登場する機会があるかと思います。付録があるとか、伝えたいことがあるという情報がパソコンの画面に出るんですが、ケビーはお知らせすることはできないので、ケビー単体では難しく、パソコンを併用しながら対応するという感じになります。

(2) 令和 8 年度事業計画 (案) について

(委員)

図書資料整備費ですが、本代が値上がりしてますよね。冊数は減るってということでしょうか。

(事務局)

予算削減が厳しい中で、本代だけは確保できるよう、単価が安いものと工夫して組み合わせるなどの対策を取りながら、様々な調整を経て確保したところです。ただし、法律書のようにデータ化されているものや年度ごとにまとめて出版されるものなど、現状を踏まえながら効率的な方法を模索して、みんなで考えてできる限り、削減せずに対応していきたいと考えています。

(3) 第 5 次旭川市子ども読書活動推進計画について

(委員)

旭川に外国人の子供たちが結構来てると思いますが、その外国人の子供たちが図書館を利用するのはどの程度あるのでしょうか。表示などを外国語にしたり、やさしい日本語にしたら、結構利用が増えるんじゃないかなと思います。

初めて日本に来たときに、子供たちや大人もそうなんですけど、絵本の部屋や児童室に行って、いろいろなことを学んだっていう方もいらっしゃるんで、その辺りを何か工夫したらその方たちのコミュニケーションの場にもなるので、良いんじゃないかなと読んでいてその部分がなかったのでお聞きします。

(事務局)

読書バリアフリーに関する講演会が行われ、専門家からの講習によって職員も多くを学ぶ機会となりました。読み聞かせの現場では、日本語を母語としない子どもや保護者が参加する事例があり、絵本に関しても日本語以外のものや、文字が読めなくても楽しめるものが利用されています。また、字が読めない方や色の視認性が低い方への配慮として、色のコントラスト（例：ピンクが見えづらい場合など）への工夫も必要であることが判明しました。こうした学びを今後の活動に活かし、状況に応じた工夫を進めていきたいと考えています。

（委員）

昨年秋に、神楽図書館の提案で児童センター内で試験的に読書活動を実施しました。その中で、海外にルーツを持つご家庭や、日本語に不慣れな保護者が参加されるケースがありました。普段図書館ではコミュニケーションが生まれにくい状況がある一方で、児童センターという自由な空間では、お子さんが遊びや絵本を楽しみながら、保護者とも自然な形で対話が生まれる場面がありました。

ある参加者から「子どもたちは本が好きでここで育ったが、自分は言葉の壁を感じていた。初めて声をかけることができた」という感謝の声があり、児童センターの試験的な取り組みが新たな可能性を生んだことが分かりました。こうした活動が図書館や他の施設でどのように広げられるかを視野に入れつつ、親子で楽しめる読書企画や絵本の選び方を工夫していきたいと考えています。

（委員長）

もう既に様々な方が来館されているということで、その取組の一つは表示であったり、どのような本を用意するかということのお話だったのかと思いますが、ある程度取組が進んできてるという理解で良いでしょうか。

（事務局）

市役所の新庁舎では、全部の階段に黄色と赤のテープ貼ってありますが、視覚の色のよくわからない方のために貼ってあるんですけど、そういった感じで、もう少しずつ館内の中もそういう対応ができればなと思っております。

（委員長）

今いただいた意見も参考にしながら、さらに来館者のためにということで工夫していただければと思います。ひととおり中身は終わったんですが、年に3回の本当に貴重な集まりですので皆様から感想でも意見でも結構ですので、お1人ずつご意見をいただきたいと思っています。

（委員）

今日はありがとうございました。本当にたくさんの学校司書の方が、一人で3校受け持って回っていたり、学校のために色々なことを考えて熱心に取り組んでいます。ただ、学校司

書は基本的に 1 人職のため、研修の機会がなければ他校の状況や取り組みを知る機会が少なく、不安に感じることもあるようです。また、勤務日が限られていることで、急ぎの依頼にすぐ対応できないケースもあるとの課題を感じています。学校では学校司書や教員が協力しながら図書を活用し、子供たちの成長を支える取り組みを続けていきたいと考えています。

(委員)

先ほどの質問について回答をいただき、電子書籍が読めない時にライセンスの制限が関係していることが分かり、理解が深まりました。普段は利用者として図書館を訪れる立場でしたが、図書館運営には様々な予算や工夫があり、関係者がどのようなことを考えているのかを知ること、非常に視野が広がる有意義な時間だったと感じました。

(委員)

昨年の図書館まつりに参加し、親子の笑顔が印象的だったという感想を見て、参加してよかったと感じました。光と影のファンタジーにも参加し、多くの人にその楽しさが伝わっていることに嬉しさを感じました。しかし、告知が難しいという課題も強く感じていますので、SNS の活用により、広く周知されていけばと思います。

(委員)

初めてこういうところに参加させていただいて、雰囲気や感覚を掴むことができました。夏場には月に 2 回ほど図書館を利用していますので、委員としてもっと来館者の方を増やしていくことができればと思います。

(委員)

私たちの活動は地道で目立つことは少ないですが、コツコツと制作したものを国会図書館に納め、利用者からのリクエストに応じて提供しています。しかし、もっと多くの人に読んでもらいたいと願っています。活動の性質上、視覚障害者向けのものが中心で、著作権の問題もあるため制約が多いです。市役所と連携し、視覚障害者手帳の交付などの機会も生かして、この活動を広く知らせてもらえたらと思います。また、絵本や児童書にも取り組んでいるので、子供たちを含めさまざまな方に利用していただきたいと考えています。ありがとうございます。

(委員)

図書館に初めて来る子供たちは、たくさんの本があることに驚き、良い体験をします。しかし、現状では子供たちが図書館に行くために様々な制約があり、保護者同伴や校区内でのみの利用といった足かせが多いことが問題です。例えば、校区を広げたり、特定の学校の子供たちが自由に図書館に行けるルールを設けるなど工夫すれば、もっと子供たちに利用される図書館になると感じています。このような制約がもったいないと思います。

(委員)

普段、読み聞かせの活動をしています。学校司書の方が忙しい中でも日曜日などに協力して下さることに感謝しています。学校ごとの事情を知る機会は貴重であり、学校図書館の役割と重要性を感じています。一方で、普通では学校図書館や子供たちの中に入り込むのが難しいことも課題です。また、仲間の中には文庫の活動を続けている方もいて、学校に通えない子供や海外から来た子供など多様な方々と接することができます。これからも図書館協議会や先生方と話し合える場を大切に、そういったつながりを継続していきたいと思います。活動を通じてできることを考え、協力していきたいです。

(委員長)

今日のお話を通じて、図書館での工夫や企画が進められている中で、新しい発見があることを感じました。皆さんの意見を総合すると、大切なのは来館者のきっかけ作りであり、それには SNS の活用や関心の高いテーマとの企画のマッチングが重要です。来館者を増やし、多様な人々を呼び込む工夫がこれからの課題だと思います。次回の進捗報告を楽しみにしております。ありがとうございました。